

令和元年度第1回庄内町地域包括支援センター運営協議会 会議録

- 1 開催日時：令和元年5月28日（火）13:30～14:50
- 2 場 所：余目保健センター 検診室
- 3 出席委員：鶴巻伸、高橋未央、船見芳弘、佐々木正人、森田義宏、秋庭道雄、佐藤幸基
田澤縁、池田博史
- 4 欠席委員：後藤元、菊池健一、齊藤学
- 5 包括職員：包括課長 大隅香子
- 6 事務局：保健福祉課長 鈴木和智、主査兼高齢者支援係長 佐々木悦子
主査兼介護保険係長 長南ゆかり、高齢者支援係主査 渡部 恵子

-
- 1 開 会 保健福祉課主査
 - 2 委嘱状交付 委員を代表して鶴巻伸氏に委嘱状交付（委嘱の任期満了により全委員に交付）
 - 3 あいさつ 保健福祉課長

町の機構改革があり、子育て応援課と環境防災課の新設となり、情報発信課が企画情報課に名称が変わった。保健福祉課では、子育て応援係と環境係がそれぞれが課として新設された。また、立川にあった健康福祉係が健康推進係の一つになり、地域支援係が高齢者支援係へ係名が変更。新年度は課として4つの係体制でスタートしている。新庁舎の工事も進み、西庁舎の解体作業も始まる。新庁舎には、業務を委託している包括センターの業務の一部と生活困窮などの相談もワンストップでできるよう職員に居ていただくようになる。これからは共生社会の実現に向け、年代、障がいの有無に関わらず全世代対応型の地域包括支援センターの対応ということが求められている。地域包括支援センターの円滑運営についてご協議いただきたい。

- 4 会長選出
事務局一任 事務局案：会長 池田博史委員、副会長 菊池健一委員
委員一同 承認

【会長あいさつ】

認知症の関係で全国的にも問題が出てきている。慎重審議をお願いしたい。

- 5 協 議（進行 会長）

（1）平成30年度地域包括支援センター事業報告について

【包括課】資料により説明

【委 員】P2 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の特徴的なこととして、町外の居宅介護支援事業所に担当を依頼するケースが増えているとあり、また、P5 町外の居宅介護支援事業所に紹介するケースが増えているとあるが、同じ意味なのか。

【包括課】同じことである。

【委 員】町外に委託するメリット、デメリットについてはよく分からないが、このことについてどう捉えているのか。

【包括課】利用者は近いところが良いと言われるが、町内の事業所に空きがないという事情を説明して、町外の居宅もベテランで安心してお勧めできると伝えている。

【委 員】町外の居宅とはどこの事業となるのか。

【包括課】町内には居宅事業所は余目に3ヶ所、立川に2ヶ所ある。町外は、松山、三川、酒

田の居宅事業所に頼んでいる。居宅が持てるケース件数には限りがあるため止むを得ないと思っている。

【委員】利用者は余目に住んでいるが、家族が酒田に住んでいるというケースでは町外だと良い面もあるのかもしれない。気になった点として、事例から抽出された課題の②に家族における介護力不足とあるが、介護保険制度は家族介護を助けるということからスタートしているので、介護力不足という表現は直したほうが良いのではないか。

【会長】表現は見直しをすることでよろしいか。

【事務局】包括と事務局にて見直しを検討する。

(2) 地域密着型サービス事業所の指定更新について

【事務局】資料により説明

【会長】事業所の指定更新については、事務局に審査を委ねたいがいかがか。

【委員一同】承認

6 協議

(1) 平成30年度事業における分野ごとの地域課題について

【事務局】資料により説明

【委員】認知症カフェは本人でなく、家族で悩んでいるという人が参加していいのか。また、どうやったら参加できるのか。

【事務局】どなたでも参加できる。町広報やチラシの配布により周知している。

【包括課】チラシを作成して配布しているが不十分なところもあるので、チラシが出来たら医療機関にも配布したいと考えている。

【事務局】町広報を見逃すこともあるので周知方法については再度検討する。定期開催として、決まった日時・場所に行けば相談ができるようにしたいと考えている。

【会長】認知症の話題が出たので、認知症初期集中支援チームの取組事例等あるか。

【事務局】町に認知症初期集中支援チームがありチームで取り組んでいる。対象となる方は本人がなかなか受診しない方と、受診していても対応に困っているケースとなる。一人暮らしだと自分が困らないと受診しない。困っている方に対してチームとして相談にのっていきたいと思っている。

【会長】認知症の関連で家族が壊れているケースが増えていると思われる。困っているが誰にもいえない、医者に行っても診療科が違うなどで支援に繋がらないなどあり、家族が悩んでいるケースが見られる。地域での状況やこんな方法があるなど外の委員からの意見もお聞きしたい。

【委員】自分家庭は母親が認知症で、家内が4月から入院している。週2回のデイサービスを使っているが間に合わないので、ショートステイ等使い限度額いっぱい利用したいと考えている。地域見守り会議でも話題になるが、自分の家庭のことにならないと親身になって考えることができないように思う。

【委員】困りごとの相談をうける中で、認知症の相談も多く見られる。多職種が連携して支援するという形が良い。

【委員】ネグレクトは虐待に繋がると思われるので、家族は外に話したくないと思う。高齢者は医者にかかっているのに、医療関係、民生委員と連携をとらないと、本人と家族が共倒れになる可能性がある。認知症カフェもとても意味があると思うが、施設、事業所には専門家がいるので施設にも相談して欲しい。

- 【委員】本人は大丈夫と言うが、家族よりケアマネからサービス利用を勧めて欲しいと頼まれるケースがある。本人と家族の考え方が異なることもあるので、上手にサービスにつなげて行って欲しい。
- 【委員】認知症で一人暮らしの女性がおり、薬の飲み忘れがあり服薬のサービスを利用しているが、近所の方がみてくれるとよいと思うし、そういう手助けがあれば、認知症の方も一人暮らしができるのではと思う。ただ、火事がおきると困るから施設に入ってもらえという考え方もあったり、その地域の考え方があるので難しいかも知れない。
- 【委員】自宅で一人暮らしだったが、服薬管理ができない人を小規模の利用につなげたケースがある。サービス利用については、同居してる家族と遠方の家族の認知症に対する認識に違いがあるようだ。
- 【委員】他所で消防と警察から来ていただいて、認知症に関する研修会をしたと聞いた。点で結ぶのではなく面でとらえて、多方面との連携をしっかりと強めていくことが大切だと思う。
- 【委員】高齢者の交通事故が多く聞かれるので、生活支援の部分で送迎に対して不安が大きい気持ちもわかる。高齢者は移動手段が無いと外に出られないのが実態なので、送迎サービスは必要と思う。送迎ボランティアに手をあげてくれた方を守るシステム、仕組みを考えてもらいたい。
- 【会長】送迎サービスについては、バスやタクシーと競合するという課題や、送迎する人の責任が問題点となっているようだ。町営バスの使い勝手をよくするとかデマンドタクシーの充実を図るなど、町としても見直し、検討する時期にきていると思うのでしっかりと検討いただきたい。